

IAGG2013 第20回国際老年学会で発表をいたしました。

期日：2013年6月27日

会場：韓国ソウル市江南区 COEX MALL

ご利用様に安心して安全に運動していただくことを目的に、
ジョイリハで行っている3時間の運動プログラムのエビデンス（証拠）の構築を行っております。
第一報・二報・三報に引き続き、今回の国際大会で四回目となりました。

今回参加した老年学会は、4年に1回行われる老年学会の「オリンピック」のようなものです。
この学会には5,000名の学者、教育者、研究者が世界90カ国から参加し、約4,000の研究発表や事例が6月23～27日の4日間で紹介されました。

日本からは企業、病院、大学など20事例の取り組みがこの学会で紹介されました。

その一つがジョイリハです。

何千もある発表のほとんどはポスター資料で行うポスター発表の中、私共ジョイリハの取り組みは光栄なことに会議室で資料映し出しながらのプレゼン発表となりました。

今回の国際老年学会での発表で、機能訓練型デイサービスでの運動効果の実証（エビデンス）というのは、世界的にも注目を浴びているものと感じることができました。



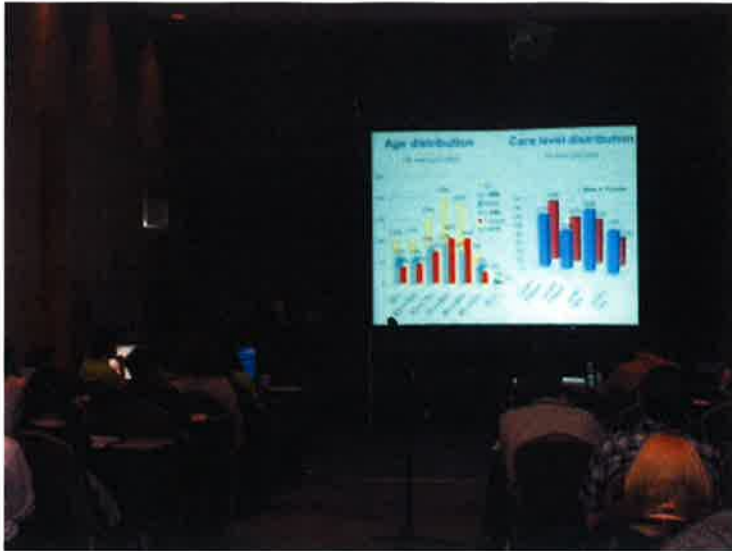
The 20th World Congress of Gerontology and Geriatrics

2013 June 23-27, COEX MALL, Seoul, Korea

大会ポスター（クリックすると大きな画像でご覧いただけます）



集合写真



発表の様子



質疑応答の様子

【内容】

今回の発表では、前回の大阪での発表で行ったジョイリハご利用者様のうち、歩行装具を用いないご利用者様(要支援 1.2、要介護 1.2)の 180 日後までの長期的変化・介護度別の変化を検討し、介護度及び運動機能の変化について国際大会ということで英語でのプレゼン・スピーチ発表を行いました。

【方法】

ご利用者様のサービス利用前・後の介護度と運動機能（握力、開眼片足立ち、5m 歩行速度、機能的リーチ、長座位前屈、落下棒テスト、TUG、2 分間足踏み）の変化を評価しました。

【結果】

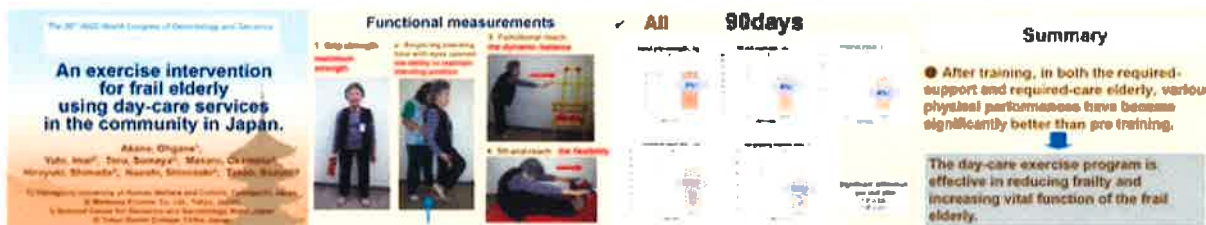
要支援・要介護者ともに、サービス利用前に比べ利用後の介護度及び運動機能が有意に向上した項目が認められました。

機能訓練専門デイサービスの利用は介護度や運動機能全般の維持・改善に有効と考えられます。しかし、運動機能の向上はサービス利用 90 日後までに顕著に認められ、それ以降は維持されている方が多くいらっしゃいました。サービスの長期利用に対しては運動プログラムの内容を再検討することで、より効果が増す可能性があります。

【課題】

ご利用者様のご参加期間に合わせて、その方にあった運動プログラムをさらに追求してまいります。結果については、今後の学会発表でご報告いたします。

実際のパワーポイントの一部です。(クリックすると大きな画像でご覧いただけます)



今後も第五報、第六報と、引き続き研究、発表を行ってまいります。データ収集と写真の開示にご協力くださいましたご利用者様に感謝いたします。また、今回ご協力くださいました先生方には、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。国立長寿医療研究センター 鈴木隆雄先生、島田裕之先生
東京歯科大学 篠崎尚史先生
山口福祉文化大学 大金朱音先生
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics

Digital Ageing: A New Horizon for Health Care and Active Ageing

June 23-27, 2013 Coex, Seoul, Korea

An exercise intervention for frail elderly using day-care services in the community in Japan.

Akane, Ohgane¹;

**Yuto, Imai²; Toru, Someya²; Masaru, Okamoto²;
Hiroyuki, Shimada³; Naoshi, Shinozaki⁴; Takao, Suzuki³**

1) Yamaguchi University of Human Welfare and Culture, Yamaguchi, Japan

2) Wellness Frontier Co. Ltd., Tokyo, Japan

3) National Center for Geriatrics and Gerontology, Aichi, Japan

4) Tokyo Dental College, Chiba, Japan

Functional measurements

1. Grip strength:
maximum strength



2. Single-leg standing time with eyes opened:
the ability to maintain standing position



3. Functional reach:
the dynamic balance



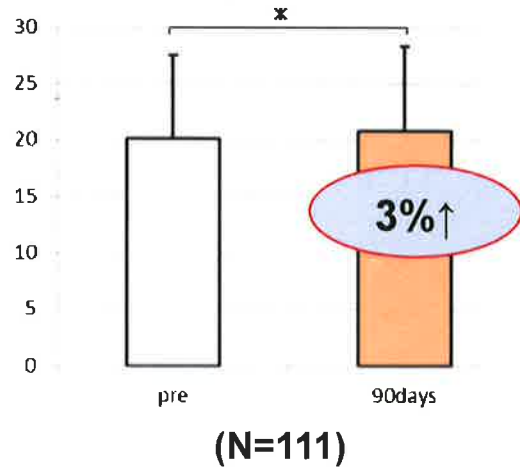
4. Sit-and-reach:
the flexibility



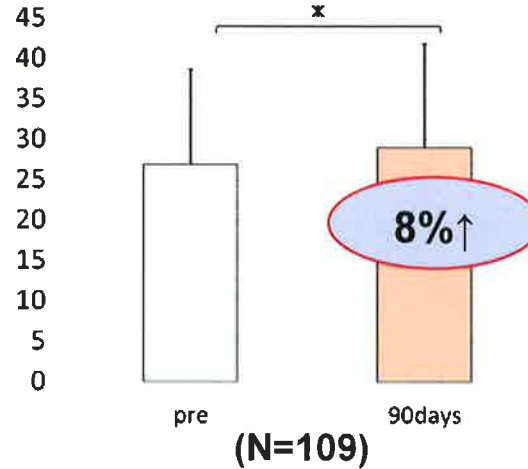
All

90days

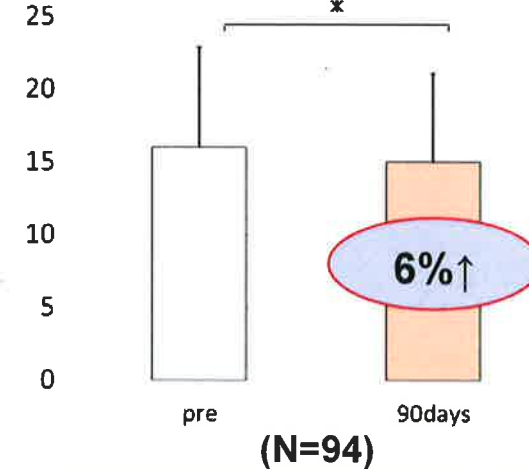
Hand grip strength , kg



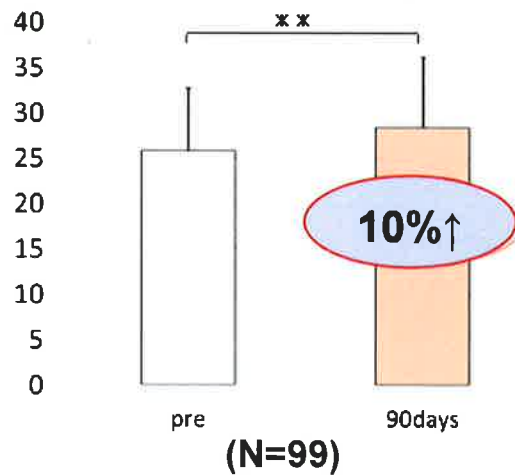
Sit-and-reach test , cm



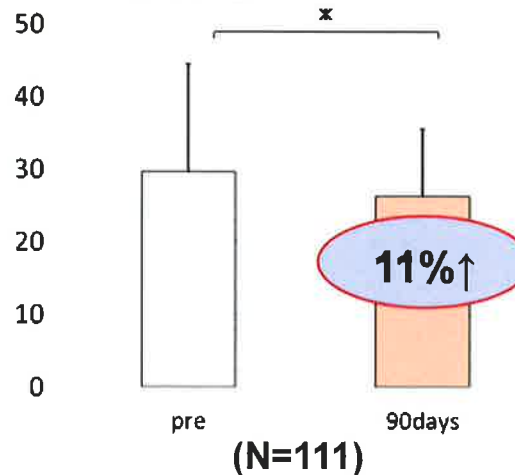
Timed up and go , s



Functional reach test , cm



Bar-gripping reaction time , s



Significant difference
pre and after
* P < .05
** P < .01